

事業名：水産流通基盤整備事業

地区名：平敷屋地区平敷屋漁港(沖縄県うるま市)(第2種)

●地区の概要

本漁港は、沖縄本島の中部地域の勝連半島に位置し、約290隻と多くの漁船が利用する流通拠点漁港となっており、昭和50年代からモズク養殖が盛んに行われている。モズクの陸揚量は県内第1位を誇り、中部平敷屋圏域内で生産されたモズクの約4割を集約・加工・出荷しているため、生産機能及び流通機能の中核的な役割を担っている。また、約7km離れている津堅島への定期船の離発着場を有しており、人流・物流の面においても「生活港」として重要な地区である。

●事業の目的

○災害リスクへの対応力強化

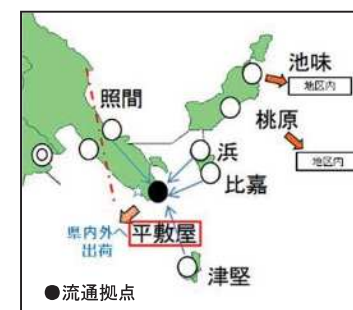
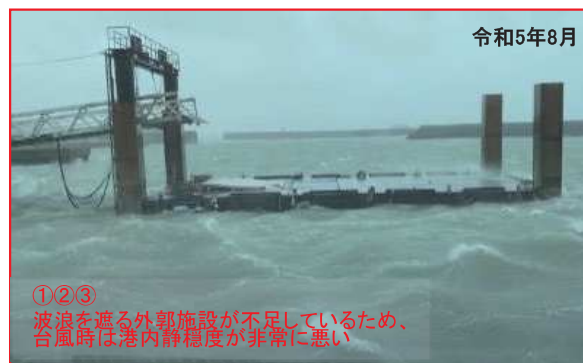
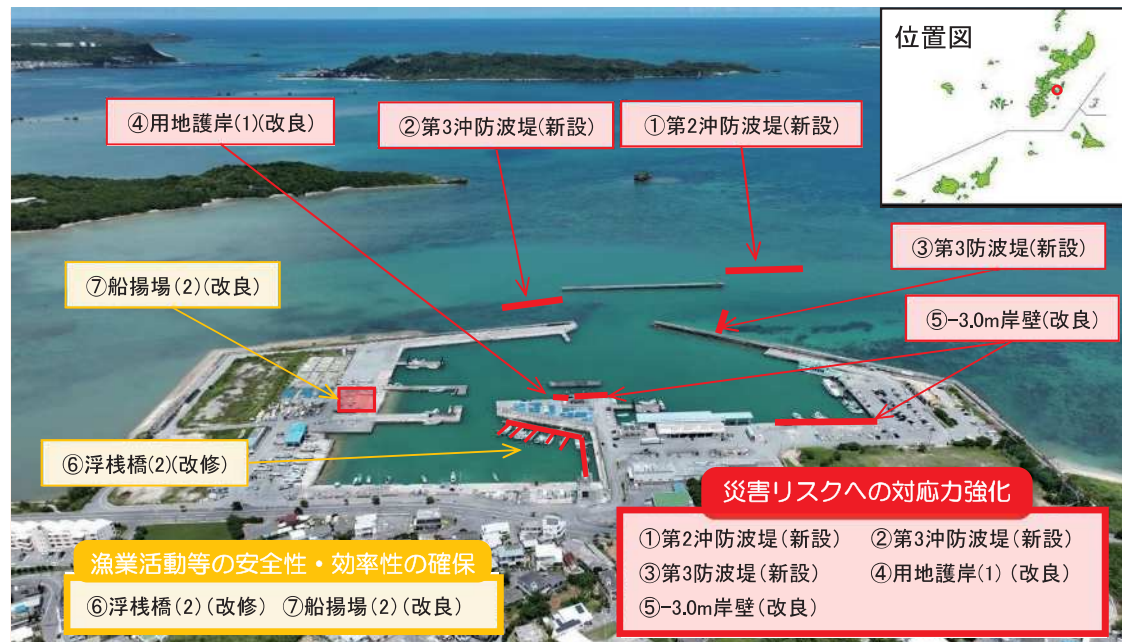
近年は大型化する台風の襲来により港内静穏が悪化し、避難漁船や定期船の安全な係留が困難な状況であり、既設浮桟橋の施設被害も発生している。また、陸揚及び準備岸壁が現行の耐震基準を満足しておらず、地震が発生した場合、陸揚げ等の機能を維持できなくなり、地域の経済活動に影響を及ぼすことが危惧される。このため、外郭施設を整備して安全な係留水域を確保するとともに、岸壁・護岸の耐震性向上を図り、拠点漁港として災害時における対応力を強化する。

○漁業活動等の安全性・効率性の確保

7～9月の休漁期間中に漁船の補修作業が集中するため、漁業者は炎天下での厳しい作業を強いられている。また、波浪の影響により浮桟橋の老朽化の進行が著しいため、安全な係留に支障を来している。このため、防風施設を整備して漁業者の作業負担軽減を図るとともに、浮桟橋の改修を行い、漁業活動の安全性や効率性の向上を図る。

事業内容

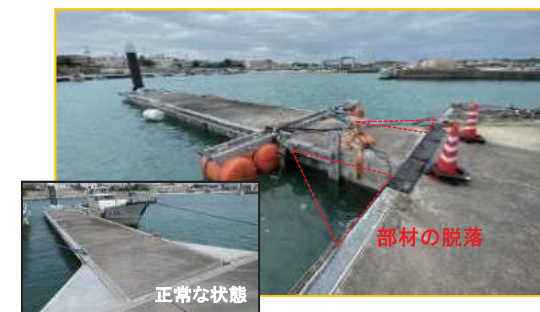
- ・主な事業量：第2沖防波堤(新設)L=90m、第3沖防波堤(新設)L=120m、第3防波堤(新設)L=50m、用地護岸(1)(改良)L=10m、一3.0m岸壁(改良)L=146m、浮桟橋(2)(改修)L=116m、船揚場(2)(改良)一式
- ・事業費：1,620百万円
- ・事業主体：沖縄県
- ・事業期間：令和7年度～令和13年度
- ・令和8年度実施要望額(事業費)：46,000千円
(国費)：41,400千円
- ・令和8年度事業実施予定箇所：
 - 測量設計費：土質調査 一式(第3沖防波堤、第3防波堤)
 - 測量 一式(第3沖防波堤、第3防波堤)
 - 設計 一式(第3沖防波堤、第3防波堤)
 - 探査 一式(第3沖防波堤、第3防波堤)



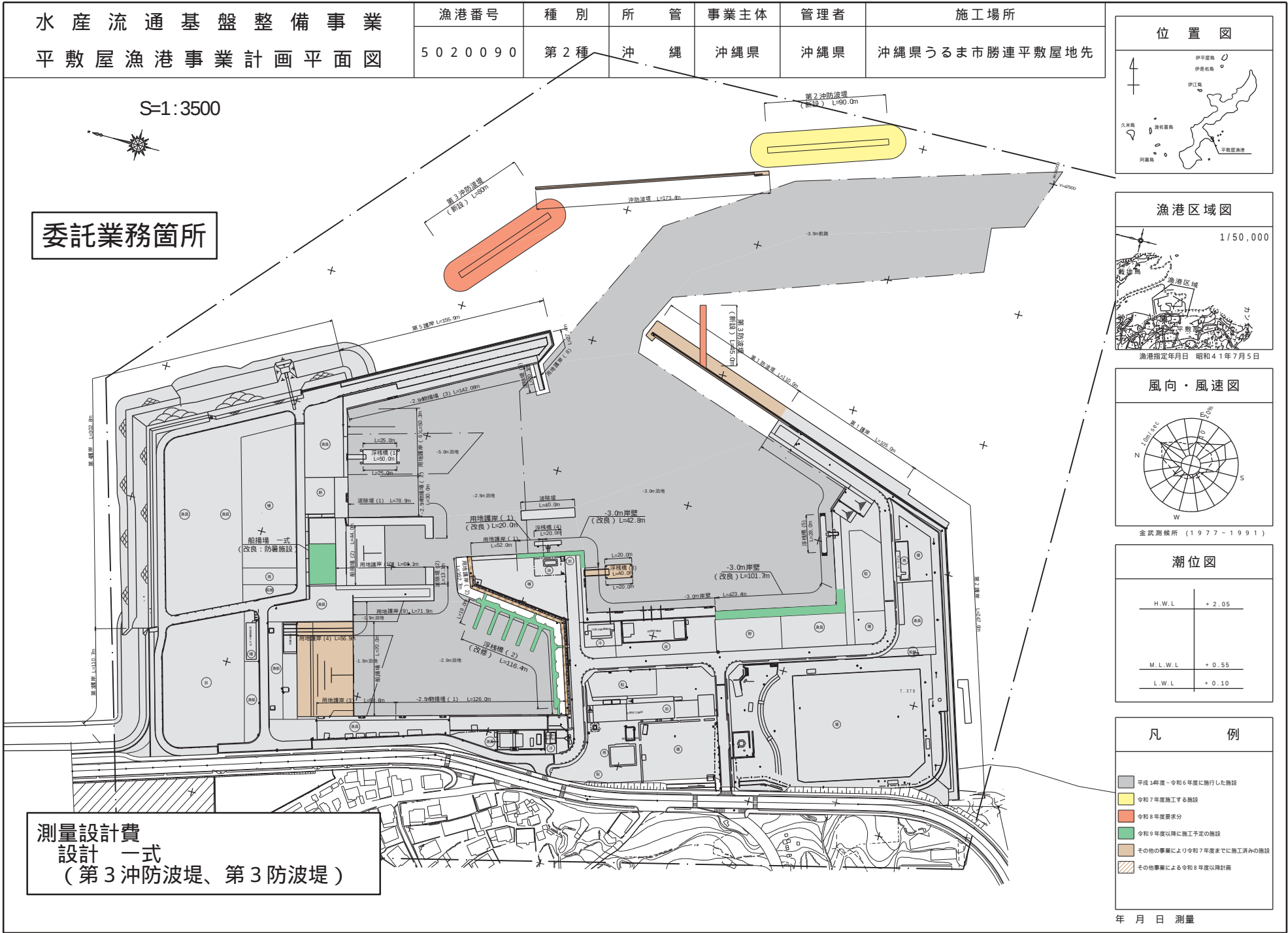
・当漁港に周辺漁港から水産物を集約し、加工した後、県内外へ出荷している



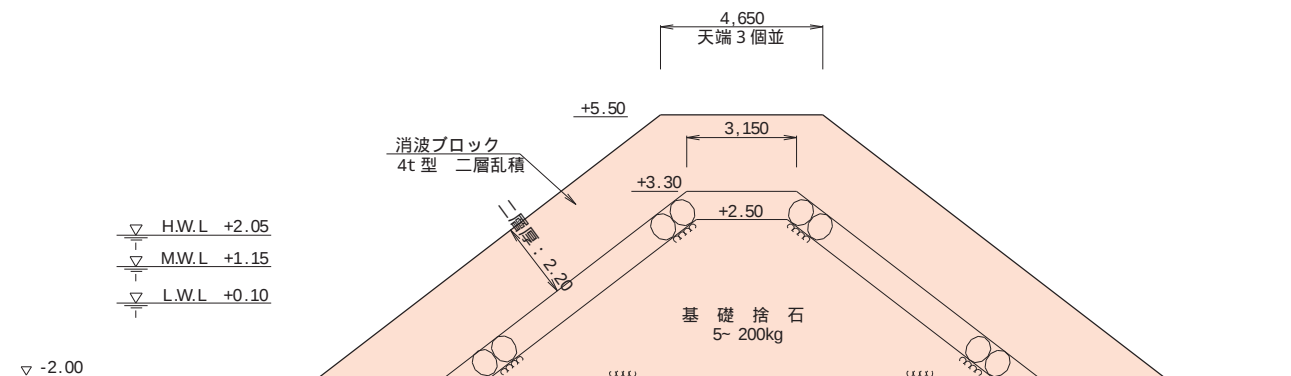
①②③港内静穏が悪い、強固な綱取りが必要となるなど非効率な避難係留を強いられている



⑥令和5年8月の台風第6号により損傷した浮桟橋(2)の応急対応後の状況

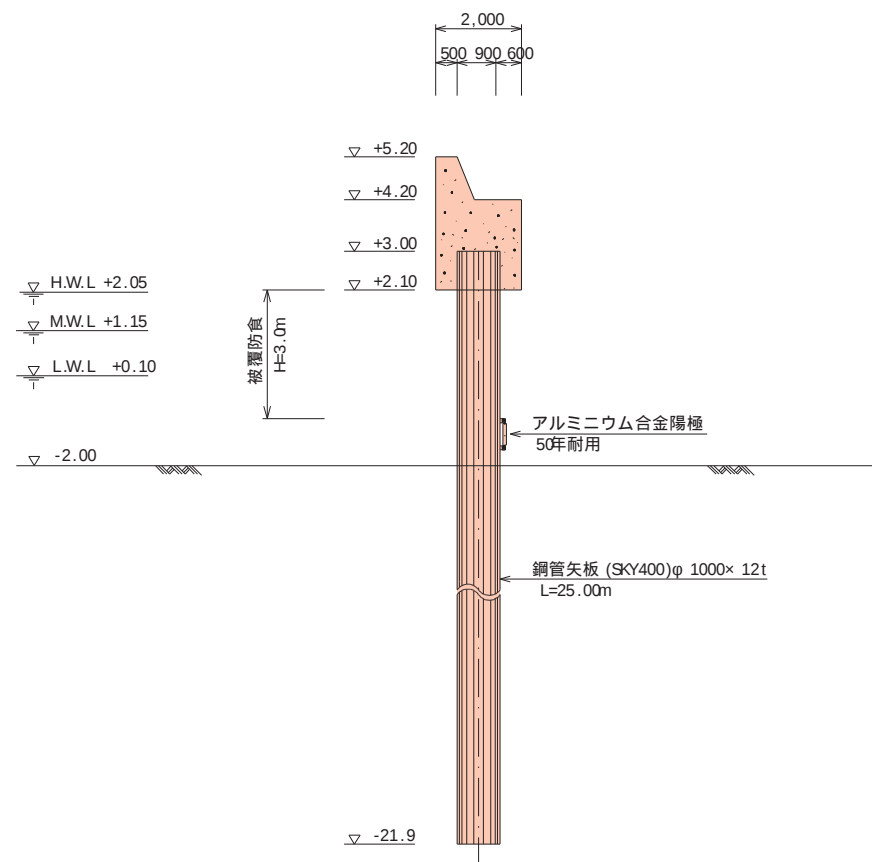


【第 3 冲波堤 標準断面図】



凡例	
	令和 8 年度要求分 (測量設計費)

【第3防波堤 標準断面図】



凡例	
	令和 8年度要求分 測量設計費)

全景写真

